

～社会の中でよりよく生きていくための「汎用性の高い基礎力」の育成～

2021年4月9日 校長 加藤 英優

「あれから一年。今年はみんな揃って新学期を迎えることができた！」これは、無事に4月7日の始業式、入学式を迎えることができた私の正直な感想です。昨年度は、見えない脅威新型コロナウイルスに世界中が振り回されつづけた一年でした。いわゆる自然災害とはまた異なる自然界の脅威に、これほど長期間にわたり怯え続けるという経験は近年ありませんでした。やっと普通に戻れるのかと思った矢先、新たに変異ウイルスによる脅威が牙をむき始め、ウイルスへの感染状況はすでに一年前の4月を超えてしまいました。一年ぐらいたてば落ち着くだろうと、根拠もなく楽観的に構えていたのは私だけではないような気がします。しかし、自然界はそれほど甘くはなく、人類はまだまだ微力であることを痛感させられています。その一方で、経済や学校教育など社会の営みを止めてしまうわけにはいかず、私たちは、危機管理に最大限の注意を払いつつ、可能な範囲で日々の営みを継続していくしかありません。

幸いなことに、これまで本市の小中学校においては、クラスターが発生するようなこともなく、何とか必要な教育活動を続けていくことができました。今後も、各家庭の協力を得て子供たちの健康管理に留意をしながら、職員が一丸となり430名の生徒の育成にあたっていきます。4月7日の始業式で、以下のような話をしました。聞いたのは2、3年生の生徒です。

社会はすでに Society5 といわれる超スマート社会に入ってきています。Society5 は人工知能 AI を活用し、より快適で豊かな社会を実現するもので、スマホやカーナビをはじめ、生活のいたるところですでにその能力を発揮し、私たちはその恩恵を享受しているところです。便利になることはありがたいことですが、その一方で、人が自ら考え行動したり、問題を解決したりする機会を失ったり、AI 頼りになりすぎてしまったりする心配もなくはありません。AI を頼りすぎるあまり、かえって AI に振り回される結果となってしまうことも心配されます。ネットで通販をしていると、頼みもしない品物をすすめられ、ついつい買ってしまったという経験のある人もいるのではないのでしょうか。そんな時代を生きていく中学生に必要なことは、自ら考え行動する主体性。自分の目標に向かって粘り強くやり抜くために自律性。他の仲間といっしょに考え問題解決に向かう協同性。学校生活を通じて、この3つを育むことができるよう学ぶことを期待しています。

義務教育に携わるわたしたち学校が子供たちにしてやれることは、将来どんな道を選択しても、自らの力で生きていくために必要な「汎用性の高い基礎力」をつけてやることだと思います。学校では、以下のような力を身に付けさせることを目標にして、職員一同力を合わせて頑張る所存です。令和3年度も、どうかよろしくお願いします。

◇学校教育の中で身に付けさせたい「未来を拓く5つの力」

- 1) 目標達成に向け、粘り強く取り組む力
- 2) 感情をコントロールし、対人関係を調整し、集団の中で生きていく力
- 3) 異なる考えや立場を尊重し、仲間とともに課題に向かって取り組む力
- 4) 新しい知識や技能、見方・考え方を積極的に身に付けようとする力
- 5) 獲得した知識や情報を活用し、考えたり表現したりして課題を解決する力